

# 平成22年9月中間期 決算説明資料



Listed Company 6488



# 平成22年9月中間期 決算概要

# 平成22年9月中間期の総括



売上高：増収となりました。

## 1. 積極的な提案型営業の推進

積極的な省エネ、高効率化提案

セミナセンターやキャラバンカーの有効活用

## 2. グループ会社の業績が順調に推移

## 3. 新興国向け輸出が好調

## 4. 積極的な新製品投入

経常利益：増益となりました。



## 増益要因

1. 好調な売上高
2. 好調に推移している子会社

マイナス要因もあります。

為替変動による為替差損の発生と海外利益  
の目減り

# 四半期純利益：減益となりました。



## 減益要因

1. 遊休土地にかかる減損損失の計上
2. 資産除去債務に関する会計基準の適用による過年度影響額の計上
3. 子会社での税負担増加

# 平成22年9月期の中間連結貸借対照表



(単位：千円)

	前中間期	当中間期	増減額
流動資産	5,422,990	6,130,500	707,510
有形固定資産	1,579,914	1,498,511	△ 81,403
無形固定資産	154,690	98,803	△ 55,887
投資その他資産	1,743,732	1,755,875	12,143
固定資産	3,478,337	3,353,190	△ 125,147
資産合計	8,901,327	9,483,690	582,363
流動負債	843,117	1,080,754	237,637
固定負債	554,566	596,924	42,358
負債合計	1,397,683	1,677,679	279,996
純資産合計	7,503,644	7,806,011	302,367
負債純資産合計	8,901,327	9,483,690	582,363

# 平成22年9月期の中間連結貸借対照表の 主な変動要因



## 流動資産：

主に利益計上による資本増加→現預金増加

## 有形固定資産：

主に減価償却による減少

## 無形固定資産：

主に減価償却による減少

## 流動負債：

出荷に連動した仕入債務の増加

利益増加に伴う未払法人税等の増加

# 平成20年9月期の中間連結損益計算書



(単位: 千円)

	前中間期	当中間期	増減額
売上高	2,634,754	2,927,661	292,907
売上原価	1,534,596	1,667,586	132,990
売上総利益	1,100,158	1,260,074	159,916
販売費及び一般管理費	1,019,143	1,023,003	3,860
営業利益	81,014	237,070	156,056
営業外収益合計	150,971	78,628	△ 72,343
営業外費用合計	23,150	63,348	40,198
経常利益	208,835	247,351	38,516
特別利益合計	1,106	0	△ 1,106
特別損失合計	705	50,484	49,779
税金等調整前中間純利益	209,236	196,866	△ 12,370
法人税、住民税及び事業税	35,318	100,131	64,813
法人税等調整額	6,065	△ 20,998	△ 27,063
中間純利益	167,851	117,733	△ 50,118



# 平成20年9月期の中間連結損益計算書の 主な変動要因



## 営業損益：

増加売上高による固定費負担割合の改善

## 営業外損益：

為替変動の影響を大きく受けたもの

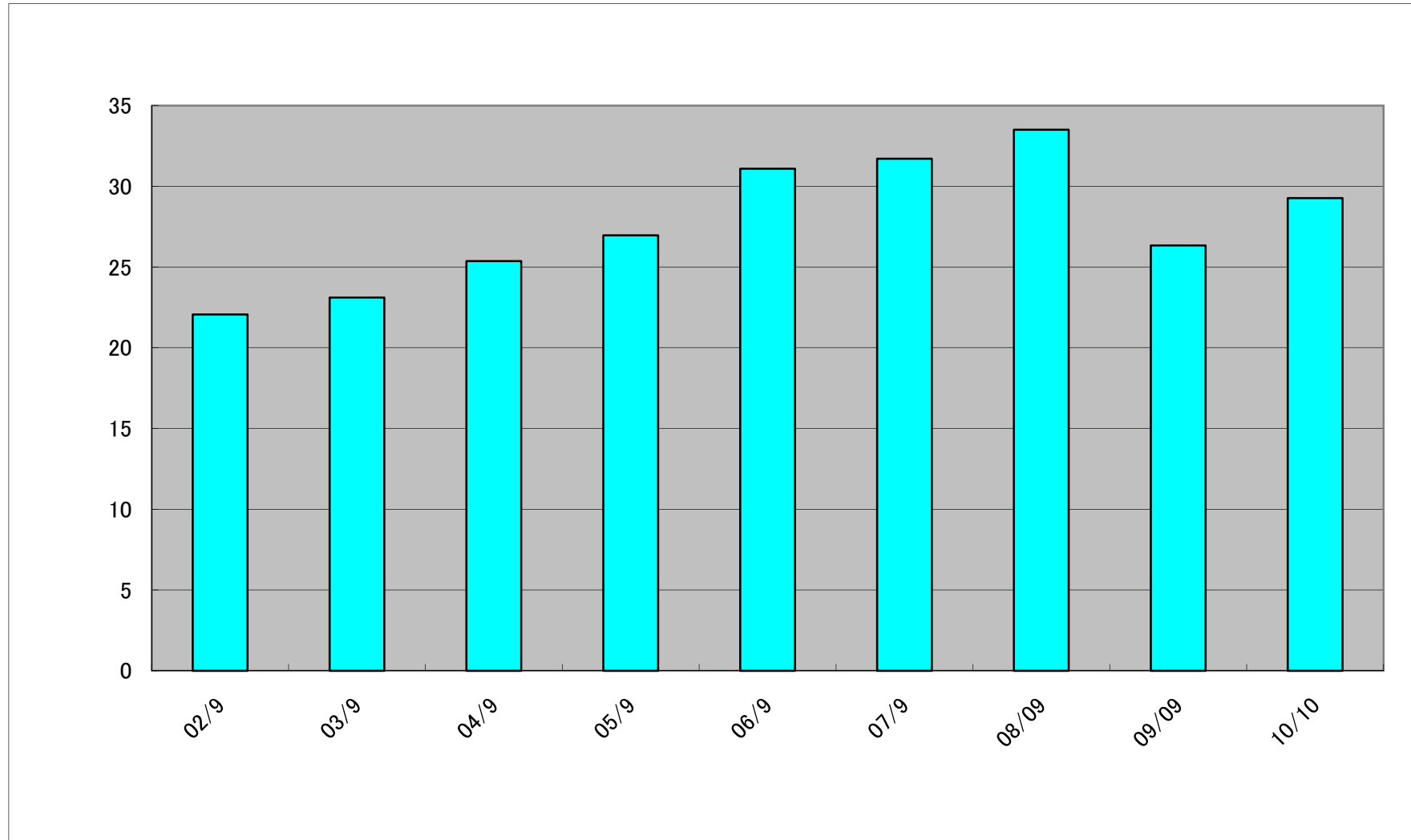
## 特別損失：

減損損失、会計基準適用時差異の影響

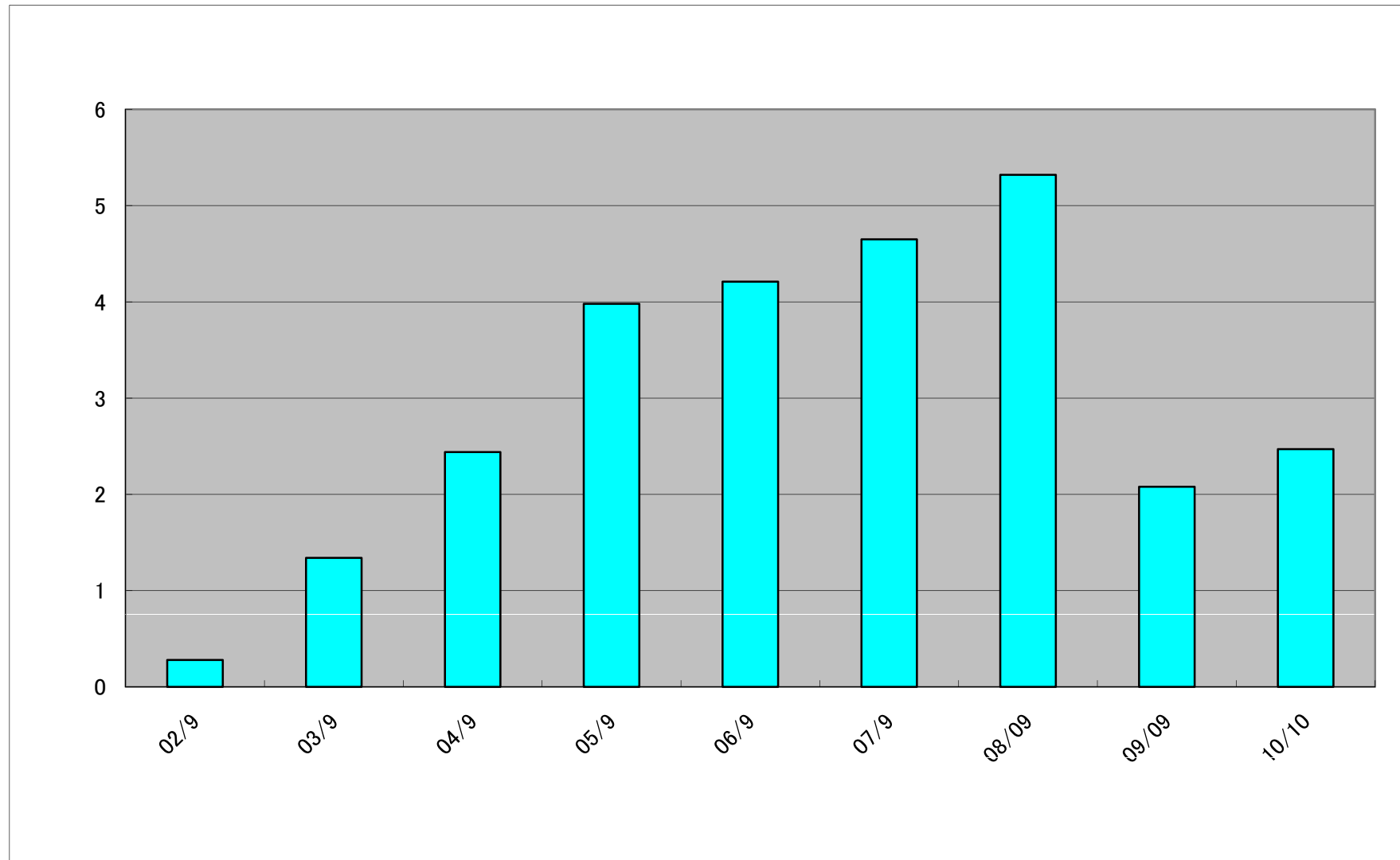
## 法人税等：

子会社での税負担増加

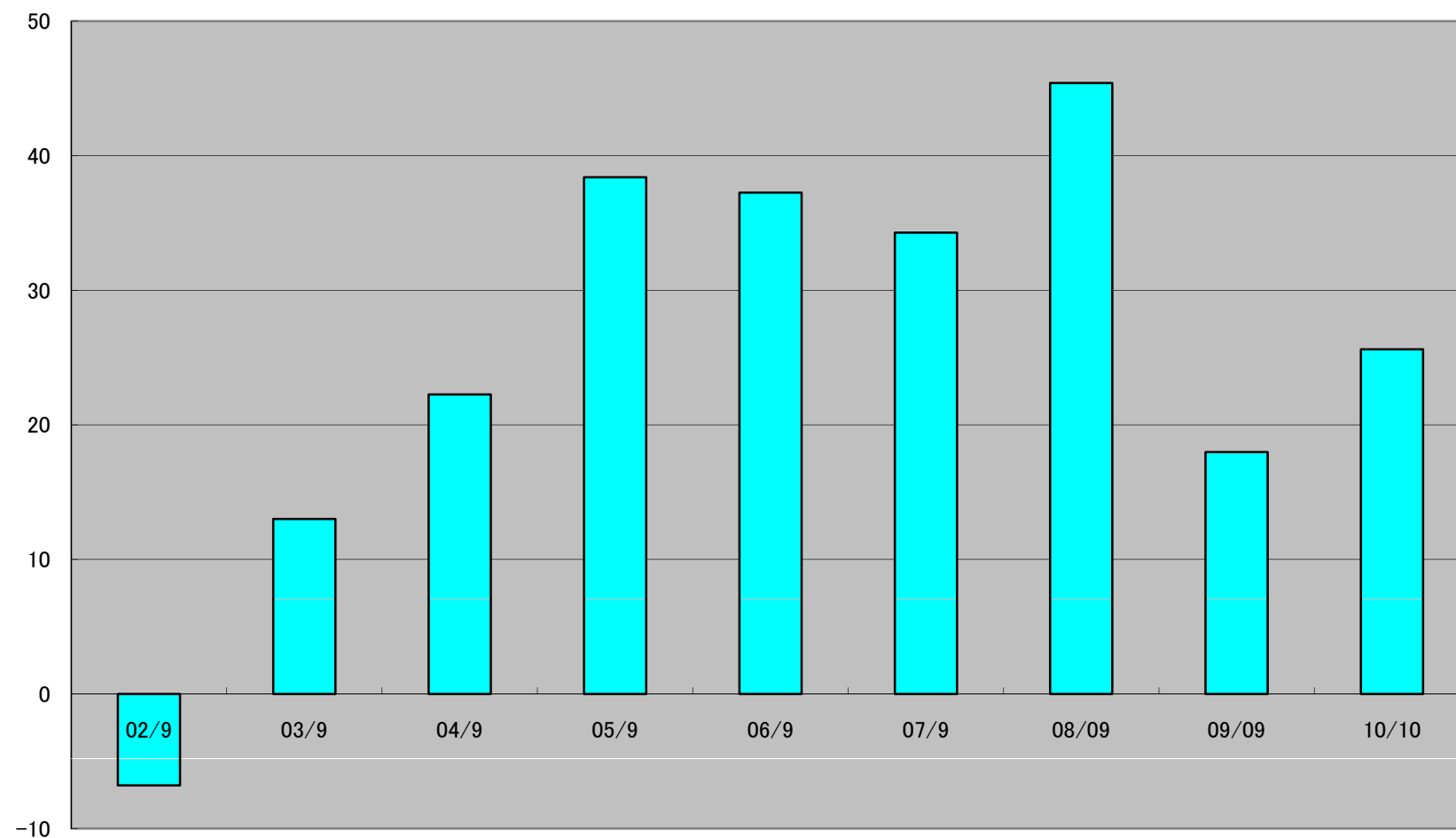
# 売上高の推移



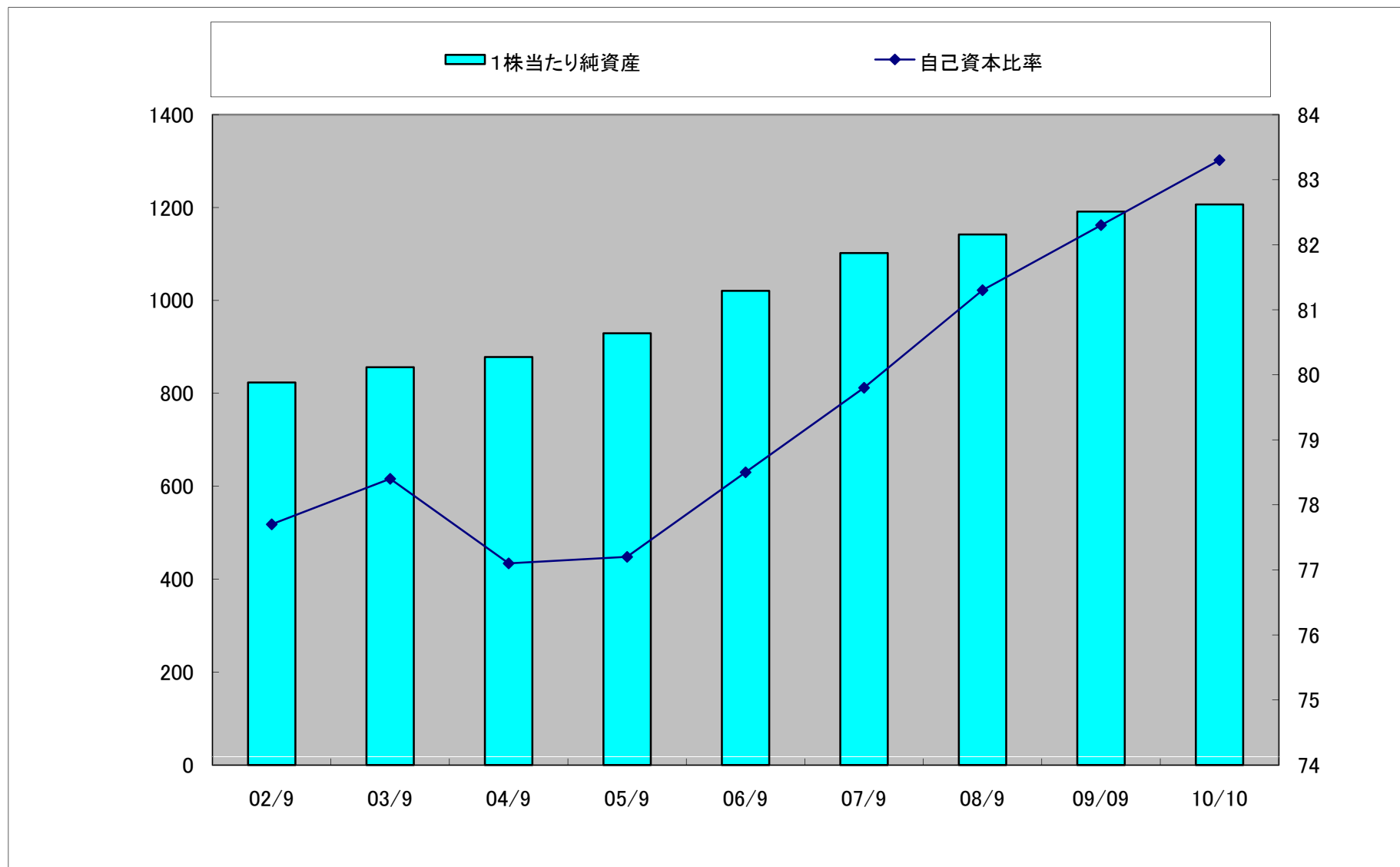
# 経常利益の推移



# 1株当たりの中間純利益の推移



# 1株当たり純資産(連結)の推移





# 平成23年3月期 業績予想

# 平成23年3月期業績予想



(単位:千円)

	前期	今期予想	増減額
売上高	5,489,718	5,680,000	190,282
営業利益	308,855	370,000	61,145
経常利益	576,619	530,000	△ 46,619
税金等調整前当期純利益	607,666	530,000	△ 77,666
当期純利益	476,832	360,000	△ 116,832

# 平成23年3月期業績予想の概要



## 連結売上高:

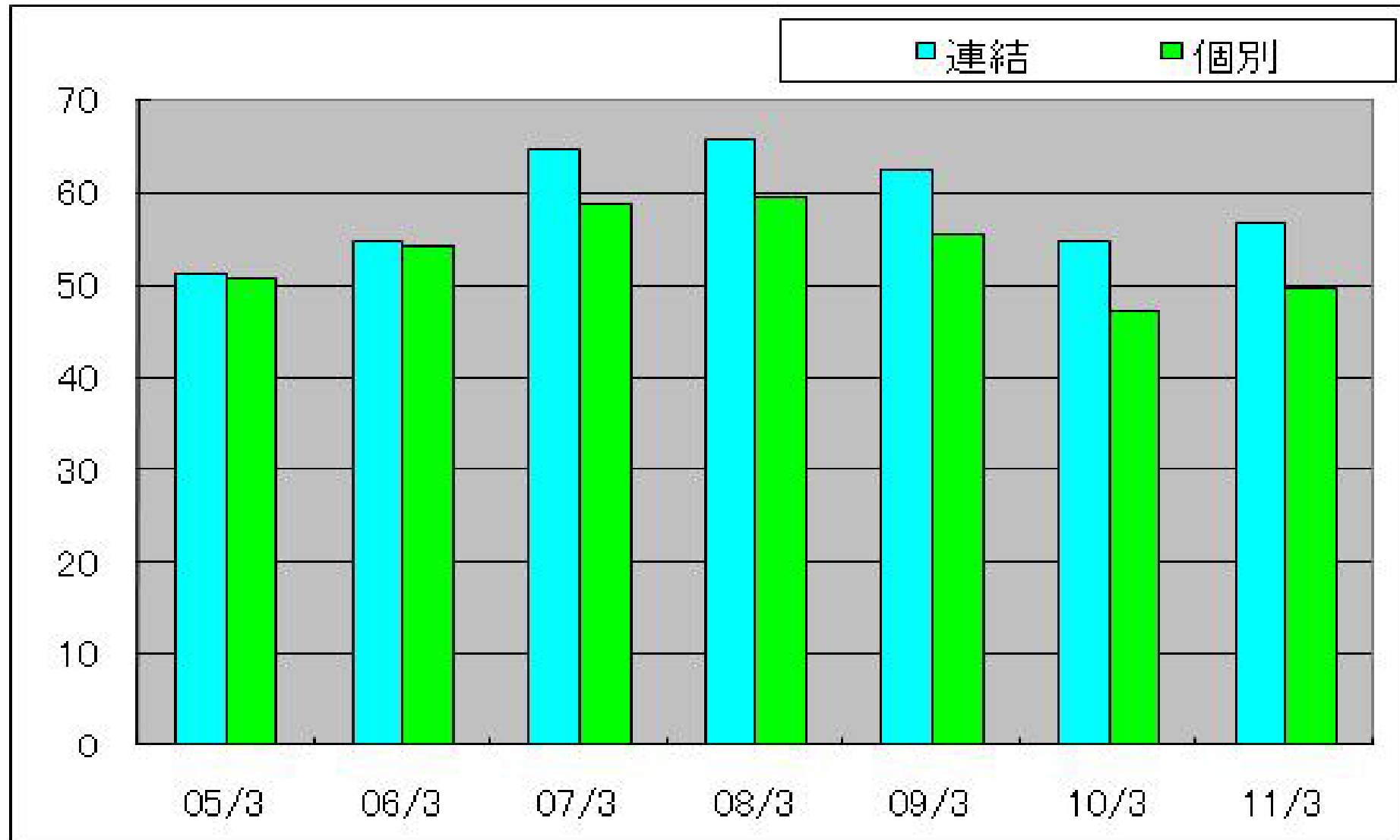
経済が緩やかながら回復に向かうと思われる中で、好調な輸出や新製品の販売拡大や海外販売の拡大などにより、前期比3.5%ほどの増収を予測しています。

## 経常利益、当期純利益:

売上が増加し、営業利益は増益を予想していますが、プラント関連向の高付加価値製品の受注減速による持分法投資利益の減少、特別損失の計上やタイにおける投資奨励恩典の期限切れによる生産子会社での法人税負担増加などにより、経常利益および当期純利益は前期を下回る予測をしています。



# 売上高の推移



# 中期7年計画について



2005年4月に中長期7年計画を策定いたしました。  
これは当社が今後も長期的で持続的な成長を続けられるよう目指すものであります。

この計画の骨子としましては次の4点を基本としております。

1. 新製品開発
2. 市場占有率の向上
3. 海外市場での販路拡大
4. 社内教育体制の強化

景気の影響を受けておりますものの、概ね順調に推移しています。



新年度はさらに以下の課題に取り組み、経営の効率化と業績の向上に努めます。

1. マーケティング活動の見直しによる参入領域の拡大と新製品開発の強化
2. 環境・省エネをテーマにした受注活動の強化
3. 世界市場の更なる開拓とセールスネットワークの強化
4. 品質保証活動と原価低減の強化
5. 人材育成の強化



## 企業理念

フェア ビジネス

**Y's a Business of Fair Endeavor**